つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和6年　8月 27 日
つばさだより 第6号

夏休みの終わりと、日々の始まり。次の「楽しみ」を探して

残暑（もはやこの言い方も昨今の気温的には違う感じがしますが。）は続いていますが、長い（人によっては短い）夏休みが終わりました。前期後半のスタートです。とは言っても、休み明けの生活リズム調整と日々の気候によって体力的にも精神的にも疲れが出てくることもあると思います。自分のリズムを大切にしながらゆっくり慌てずに学校生活に体を合わせていければいいですね。そして、この時期「夏休みロス」からくるモチベーションの上がり下がりも感じることもあります。そんな時、例年子供たちと共有しているのは「次の楽しみ」を想像したり探したりすることです。もちろん「楽しみ」の内容はどんなものでも構いません。（新しいアイテムのゲット。美味しいものを食べる。など自分へのご褒美になるもの様々。）生活のモチベーションにつながるものであれば何でもありかと思います。そしてまた、日々の生活を何となく楽しく生きていく。そのような感じで一緒に子供たちと前に進んでいければと思います。

～映画小話～

「インサイド・ヘッド」子供の感情と成長を可視化していく物語

２０１５年に公開されたピクサーの作品です。現在続編が公開されています。この映画の監督、ピート・ドクターさんがご自身の子供の成長や変化を見て、子供の頭の中で何が起こっているのか描いてみたいと思い、アニメーション作品にしたそうです。

あらすじ・・・主人公は１１歳の元気な女の子ライリー。両親の愛情を受けすくすくと成長していきます。彼女の頭の中には「ヨロコビ」「ビビり」「イカリ」「ムカムカ」「カナシミ」がそれぞれキャラクター化され、日々の彼女の感情の起伏を脳内の世界観で描いていきます。しかし、日々天真爛漫に生活していたライリーに「引っ越し」という「事件」が起こります。住み慣れた家や友達から離れての生活の中、これまで感じたことのない自分自身の「不安」や両親への「いら立ち」などがライリーの頭の中で弾け、キャラクター化された感情たちもその渦に巻き込まれていきます。

「心」や「気持ち」「感情」の起伏は言葉では「思春期」や「反抗期」等の言葉で説明されますが、実際に子供の頭の中がどうなっているかはもちろん見えません。その分、周囲の大人からすると、ひたすらもやもやしたり反発したりする子供の態度や言葉にどう対応したらよいのかイライラしてしまうこともありますね。それでもかつて子供だった大人（監督）が「こんな感じになっているのかなあ」と混乱する子供の頭の中を可視化したのがこの作品だと思いました。そして、本当に子供の「気持ち」や「感情」の成長は日々の生活のちょっとした場面で起こっていること、また、自分の「気持ち」や「感情」の成長に言葉が追い付いてくるのには、映画の中で感情のキャラクター達がドタバタと懸命に暴れ回ったようにとても大変で複雑で時間のかかることだと改めて気が付かせてくれる作品になっています。

この夏公開されている続編では、成長した主人公ライリーの中でさらに複雑になる「気持ち」や「感情」について描かれているようです。何かの機会に鑑賞してみてもいいですね。

お知らせ

＊夏休み明け最初のつばさ教室指導は、９月２日（月）から始まります。

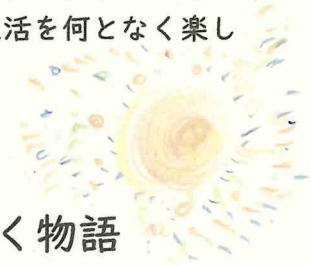
連絡ファイル等のご準備をよろしくお願いいたします。夏休み明けで何かご心配なこと等ありましたら、お気軽にご連絡ください。

つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和6年　8月 27 日
つばさだより 第6号

夏休みの終わりと、日々の始まり。次の「楽しみ」を探して

残暑（もはやこの言い方も昨今の気温的には違う感じがしますが。）は続いていますが、長い（人によっては短い）夏休みが終わりました。前期後半のスタートです。とは言っても、休み明けの生活リズム調整と日々の気候によって体力的にも精神的にも疲れが出てくることもあると思います。自分のリズムを大切にしながらゆっくり慌てずに学校生活に体を合わせていければいいですね。そして、この時期「夏休みロス」からくるモチベーションの上がり下がりも感じることもあります。そんな時、例年子供たちと共有しているのは「次の楽しみ」を想像したり探したりすることです。もちろん「楽しみ」の内容はどんなものでも構いません。（新しいアイテムのゲット。美味しいものを食べる。など自分へのご褒美になるもの様々。）生活のモチベーションにつながるものであれば何でもありかと思います。そしてまた、日々の生活を何となく楽しく生きていく。そのような感じで一緒に子供たちと前に進んでいければと思います。



～映画小話～

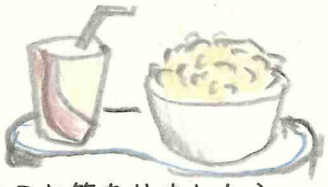
「インサイド・ヘッド」子供の感情と成長を可視化していく物語

２０１５年に公開されたピクサーの作品です。現在続編が公開されています。この映画の監督、ピート・ドクターさんがご自身の子供の成長や変化を見て、子供の頭の中で何が起こっているのか描いてみたいと思い、アニメーション作品にしたそうです。

あらすじ・・・主人公は１１歳の元気な女の子ライリー。両親の愛情を受けすくすくと成長していきます。彼女の頭の中には「ヨロコビ」「ビビり」「イカリ」「ムカムカ」「カナシミ」がそれぞれキャラクター化され、日々の彼女の感情の起伏を脳内の世界観で描いていきます。しかし、日々天真爛漫に生活していたライリーに「引っ越し」という「事件」が起こります。住み慣れた家や友達から離れての生活の中、これまで感じたことのない自分自身の「不安」や両親への「いら立ち」などがライリーの頭の中で弾け、キャラクター化された感情たちもその渦に巻き込まれていきます。

「心」や「気持ち」「感情」の起伏は言葉では「思春期」や「反抗期」等の言葉で説明されますが、実際に子供の頭の中がどうなっているかはもちろん見えません。その分、周囲の大人からすると、ひたすらもやもやしたり反発したりする子供の態度や言葉にどう対応したらよいのかイライラしてしまうこともありますね。それでもかつて子供だった大人（監督）が「こんな感じになっているのかなあ」と混乱する子供の頭の中を可視化したのがこの作品だと思いました。そして、本当に子供の「気持ち」や「感情」の成長は日々の生活のちょっとした場面で起こっていること、また、自分の「気持ち」や「感情」の成長に言葉が追い付いてくるのには、映画の中で感情のキャラクター達がドタバタと懸命に暴れ回ったようにとても大変で複雑で時間のかかることだと改めて気が付かせてくれる作品になっています。

この夏公開されている続編では、成長した主人公ライリーの中でさらに複雑になる「気持ち」や「感情」について描かれているようです。何かの機会に鑑賞してみてもいいですね。



お知らせ

＊夏休み明け最初のつばさ教室指導は、９月２日（月）から始まります。

連絡ファイル等のご準備をよろしくお願いいたします。夏休み明けで何かご心配なこと等ありましたら、お気軽にご連絡ください。